



ホタルカレンダー

1月 → 3月

幼虫期には冠雪した水路の水底や石の下でじっとし、水温5℃以下の低温環境で生活します。やがて日照量が多くなり、水温が上昇するにつれて、幼虫の行動が活発化します。

4月 → 5月

このころに6令虫に成長します。栄養物の摂取は幼虫期だけで、この幼虫期の生命活動と産卵活動を支えるエネルギーを貯えます。

5月中旬頃から雨天の夜などに盛んに上陸して土まゆを作りさなぎ(蛹化)となります。

6月

中旬ごろからゲンジボタル、下旬にはヘイケボタルの成虫が発生し、羽化して夜空に発光しながら幻想的に飛翔します。

7月 → 8月

7月上旬までに、水辺の草むらに産卵した黄色い無数の卵がふ化し、その幼虫が水中に降りていきます。ゲンジボタルの幼虫は流水の中に多いカワニナなどを、ヘイケボタルは静水の中に多いヒメタニシなどを食べて生活します。

9月 → 12月

幼虫は脱皮をくり返しながら育ちます。初めは白く柔らかい体ですが、脱皮のたびに黒く硬い体になります。幼虫の成育適温の水温は21℃前後ですが、16℃以下になる寒い季節では生活行動が鈍くなり、発育もゆっくりとなります。

ホタルを観賞 しませんか

観賞できる場所

草が生い茂るきれいな水辺にのみ生息し、U字溝や、コンクリートの水路には生息しません。また、カワニナが主食であり、カワニナが住む水辺では多く飛び交うと見込まれます。

観賞のポイント

くもり、小雨の雨上がり、蒸し暑い夜に見られることが多いです。強風、大雨、気温の低い日、月の明るい日にはあまり飛びません。また、極端に明るい場所には、警戒して活動しません。携帯電話やカメラの撮影時にはフラッシュはOFFにしてください。
※観賞スポットは表面の地図でご確認ください。

見られるホタル

1 ゲンジボタル

主にきれいな水辺に生息します。日本で見られるホタルの中で、もっとも大きく、親しまれています。2〜4秒に1回、パッと強く光って消えます。

2 ヘイケボタル

ゲンジボタルより小型のホタルです。ゲンジボタルの出現よりも約20日ほど遅れて出現します。ゲンジボタルと違い、2秒に3回くらい弱く光るのが特徴です。



ホタル観賞のお約束

- 1 ホタルを採らない！**
ホタルの成虫は七日間ほどの命。しかも絶滅の危機に瀕している希少な生き物なので、ホタルを捕まえるのは厳禁です。大切に見守りましょう。
- 2 環境を荒らさない！**
飲食物などのゴミが発生したら責任をもって持ち帰りましょう。捨てたゴミ一つで川などが汚染され、ホタルが絶滅するきっかけになるかもしれません。川に入るのもマナー違反です。
- 3 強い光を出さない！**
カメラのフラッシュはもちろんのこと、懐中電灯のような光もできるだけ点けないようにして観賞しましょう。
- 4 静かに観賞しよう！**
ホタルは繊細な生き物です。音にも反応してしまうので静かに観賞しましょう。

ホタルを守ること、それは自然を守ること。

ホタルがすめるきれいな水環境は、人間にとっても大切なもの。自然にやさしくすれば、きっといつか自分に返ってくるはずです。

かつて、川の水はそのまま飲むことができるほどきれいなものでした。またその頃は多くの生物たちが生息していました。しかし、時の流れとともに自然環境も変容し、川にすむ生き物たちにも大きな影響を及ぼしています。川の生き物たちの生息状況は、水辺の環境のバロメーターでもあります。なかでも澄んだ流れにすむというホタルの幼虫は、水の様子を知る上での大きな目安となります。その生態観察を通し、私たちの生活に大切な川の環境を守るとともに、水との関わり方を考え続けていくことが大切です。

ホタルを見るには。

ホタルの乱舞は、夏の夜だからといって、いつも見られるわけではありません。天候により、多い少ないの差があるのです。

ホタルが最も多く飛び回るのは、小雨が霽りの日で、しかも風のない蒸し暑い夜です。雨や風の強い日、気温が低い日、月の明るい日はあまり飛び回りません。時間帯は日没後1〜2時間後から光はじめ、そしてピークを迎えます。少し早めに出かけて日が暮れるのを待ちながら光のファンタジーを見るのも、まるで枕草子の世界のおもむきがあるのではないのでしょうか。

川の水は上流ほど澄み、下流ほど濁っています。

そして川やその周辺の生物の種類も、水域によって違ってきます。より清く澄んだ水域を好むイワナやヤンマ、カワニナは上流域に生息し、下流域にはフナ、アユ、タニシ、ヘイケボタルが生息します。

北会津地区は、いわゆる中流域と呼ばれるところです。子どもの頃の思い出には、誰も、赤トンボを追いかけて、川でアメンボやゲンゴロウと戯れたり、フナ釣りをしたり、ホタルを追いかけた自分の姿があります。その中に出てくる生物はすべて中流域の生物であることは言うまでもありません。私たちが今取り組もうとしているのは、より清く澄んだ水を好むゲンジボタルの生息する環境づくりです。かつてあった美しい自然を取り戻すだけでなく、さらに美しい自然、清く澄んだ流れを作り出すことです。それは取りも直さず「ホタルの里づくり」につながるのです。

ホタルの飛ぶ環境づくりへの取り組み

ホタルは自然環境にとても敏感であり、ホタルが飛ぶことで、自然環境の美しさが象徴されます。美しいホタルの生息環境を守るために、除草剤や農薬、化学肥料の使用を減らすことや、ホタルが見られる水路に、餌となるカワニナを確保するなど、ホタルが飛び交う環境づくりを目指しましょう。

ホタルの里としての公園をめざして



ホタルの森公園は、ホタルの里づくりのシンボル施設として、熊野神社周辺6,000㎡につくられた自然公園で、東屋、遊歩道、川や池などが配されており、隣には広場が設けられています。6月にはホタル祭りが開催され、また、6月下旬までホタルの風情が楽しめます。毎年、北会津中学校の全校生徒の皆さんにもお手伝いいただきながら、公園のクリーンアップや池の清掃などの活動を積極的に取り組んでいます。

幼保園園児によるホタルの幼虫の放流



令和7年4月4日(金)ホタルの森公園で、北会津こどもの村幼保園の園児たちが「北会津ホタルの里をまもる会」の皆さんとゲンジボタルの幼虫を約300匹水路に放流しました。また、ホタル飼育棟で育てた幼虫を、地域内の農地の環境保全活動などに取り組んでいる団体に提供し、地区内の水路にホタルの幼虫を放流しました。今年も夏の夜空をホタルの光が彩ることを願っています。